

まちのバリア点検活動に関する研究

—「バリアフリーまつど市民会議」の活動を通じて—

袁輪 裕子 城戸 美和

1 研究の目的

福祉のまちづくりが推進される一環として、市民等によるまちのバリア点検が各地で行われている。千葉県松戸市においても、交通バリアフリー基本構想がきっかけとなり市民団体「バリアフリーまつど市民会議」が発足し、組織的にまちのバリア点検を行った。また、点検結果をまとめた報告書の作成や市担当者への報告会などもなされた。

まち点検活動の実施主体や目的および方法は様々なケースがあるが、現在は各団体が先行事例等を基に試行錯誤で行っている状況で、必ずしも点検結果が実際の計画に結びついているとは限らない。松戸市で行われたまち点検活動は、市民が主体的に実施して市への具体的な提言に結びつけたもので、市民の主体的参加あるいは市民と行政の協働という点でモデル的な事例といえる。そこで本研究では千葉県松戸市のまち点検活動の実態を詳細に把握して課題を整理し、今後のまちのバリア点検活動に役立つ知見を見いだすことを目的とする。

2 研究の方法

千葉県松戸市の「バリアフリーまつど市民会議」が実施したまち点検活動の具体的な進め方を詳細に把握し、特徴および課題などを整理する。また参加者への意識調査を通じて活動内容および成果を評価し、今後の活動の展開に役立つ知見を見いだす。点検活動参加者へのアンケートは10月下旬～11月上旬に直接手渡しやメール等を通じて配布し、メール、ファックス、手渡し等により9名の回答を得た。なお筆者等も市民会議のメンバーとして点検活動や会議に時々参加し、一連の経過を踏まえた上で課題の整理や考察を進めた。

3 まち点検活動の内容

「バリアフリーまつど市民会議」では、松戸市交通バリアフリー基本構想の内容を検証し、市民の目から見た要望を

まとめるために、基本構想で示されている駅および駅周辺について車いすや視覚障害の立場からのバリア点検を実施し、報告書を作成した。ここではこれらの経過を詳細に把握する。なお打ち合わせや点検活動の日時と概要は表1の通りである。

1) 点検の目的とスケジュールの確認(第1回打ち合わせ)

点検を始めるに当たり、まずまち点検の目的とスケジュールを確認した。今回の点検の目的は、松戸市が交通バリアフリー基本構想に基づき実施計画を作成することから、実施計画に盛り込んでほしい市民の意見をまとめることにあった。また日程としては、実施計画作成に間に合うよう、可能な限り早急に点検して市の担当者に報告する必要があった。そこで市担当者に確認した上で、2005年8月上旬に市への報告を行うこととし、大まかなスケジュールとしては5、6月中に点検を終えて7月にまとめの作業を行うこととした。

2) チェックリストの作成(第1回～第3回打ち合わせ)

次に点検すべき内容について、視覚障害関係の項目、道路全般に関わる項目の二つに分けてチェックリストを作成した。道路等の全般的な事柄については、すでに個人で街点検活動を行っていたメンバーがチェックリストを作成していたため、それに加筆する形で作成した。視覚障害関連のチェックリストは見てわかりやすいよう図入りのリストを作成した。

3) 予備調査の実施(第4回打ち合わせ)

チェックリストの内容や具体的な方策を検討するため、予備調査としてまち点検活動を実施した。調査ではあらかじめ設定した経路を、道路全般をチェックするチームと点字ブロックの敷設など視覚障害関連の事柄をチェックするチームの2チームに分かれて歩き、用意した地図および記録用紙にメモをとり、ビデオや写真で撮影した。点検後は会議室に集まって各チームに分かれて気づいた点を確認し、チームごとに意見をまとめて点検マップを作成する担

表1 バリアフリーまつど市民会議によるまち点検活動の概要

	日時	場所(人数)	打ち合わせの概要
1	2/15 9:00~11:00	テント小屋1階(9名)	・まち点検の進め方, チェックリストの内容について相談。 ・道路等と視覚関連のチェックリストを別々に作成する相談
2	4/14 9:30~11:30	テント小屋2階(10名)	・まち点検の進め方, チェックリストの内容について相談。 ・スケジュールの決定 4月 進め方やチェックリストの内容の相談 5月 松戸駅および駅周辺を点検 6月 新松戸駅および駅周辺を点検 7月 まとめ作業 8月 市に報告書を提出 ・報告書のイメージを確認ー表現は地図, 文章, 表, 問題点の写真など ・チェックリストについて 市の実施計画の事業一覧も確認して内容を網羅することとする。駅, 駅周辺, バス, タクシーなど。 ・全体の進め方の確認 チェックリストの完成→担当グループを決定。1班が3, 4名→班ごとに担当部分をチェックし, 点検結果を持ち寄り討議
3	4/25 15:00~17:00	テント小屋2階(10名)	・まち点検の進め方を確認, チェックリスト道路版, 視覚版を完成 ・コースの確認と担当者の決定 ①駅西口→市民劇場→図書館本館 ②駅東口→税務署 ③駅東口デッキ ④駅西口デッキ ⑤ゆうまつど→勤労会館
4	4/27 10:00~13:00	西口周辺, ゆうまつど会議室(10名)	・モデル的にまち点検を実施する。 (ルート: 駅西口→市民劇場→図書館本館の往復) ・点検後, まとめ話し合い。まとめ担当者の確認。
5	5/7 9:30~12:00	テント小屋2階(14名)	・まち点検結果のまとめ(バリアマップ)の作成方法の確認 ・点検作業の流れの確認, ・地区割り担当者の再確認 ・準備, その他必要な物の確認
6	5/11 9:30~12:00	市民会館201号室(21名)	・会全体への経過報告, 組織作りについて(趣意書, 会則, 総会, シンポジウム等) ・まち点検について(進め方, スケジュール等)
7	5/16 13:30~14:30	聖徳10号館5階会議室(8名)	・まち点検事前準備(チェックリスト, 地図のコピー)
8	5/17 9:30~12:30	税務署周辺, 聖徳10号館(11名)	・まち点検(市役所・税務署コース)
9	5/18 9:30~12:30	ヨーカドー周辺聖徳10号館(9名)	・まち点検(戸定邸コース)
10	5/19 9:30~12:30	税務署周辺聖徳10号館(9名)	・まち点検(税務署~土木事務所コース)
11	5/23 9:30~12:30	ゆうまつど周辺, 聖徳10号館(8名)	・まち点検(ゆうまつど・勤労会館コース)
12	5/30 13:00~15:00	聖徳10号館5階会議室(35名)	・まち点検まとめ作業 進め方の相談
13	6/6 10:30~12:30	聖徳10号館5階会議室(14名)	・まち点検(松戸駅西口デッキ, 東口デッキ)
14	6/15 10:30~12:30	聖徳10号館5階会議室(21名)	・まち点検(松戸駅構内)
15	6/23 10:30~12:30	新松戸周辺, 流通経済大学ラウンジ(19名)	・まち点検(新松戸駅~社会保険事務所, 新松戸駅~新松戸支所)
16	6/27 10:00~12:00	聖徳10号館5階会議室(約10名)	・まとめ方の相談(報告書の体裁, 目次, 内容)
17	7/6 9:30~12:00	聖徳10号館5階会議室(約10名)	・まとめ方の相談(報告書の体裁, 目次, 内容, 役割分担)
18	8/3 9:30~12:00	聖徳10号館5階会議室(約5名)	・報告会準備作業
19	8/4 13:30~16:30	聖徳10号館5階会議室(約25名)	・市へのまち点検結果報告会

当者を決めた。

4)まとめ方の確認(第5回打ち合わせ)

予備調査の点検内容を基に、道路や点字ブロック等の項目ごとに数名がマップを作成し、それを持ち寄ってどのようなマップが適切か検討した。その結果、地図上に経路と問題箇所を記号等で明示し、引き込み線を引いて説明文や写真を掲載する形式とした。記号等の書き方も統一し、モデルとなるマップを模倣する形で他の地域のマップを作成することとした。その際、マップ上にすべての問題箇所の写真を掲載するのはスペースも不足し、見づらくなるため、問題のある箇所は記号等で示し、写真は主なものを掲載することにした。そのほか地図の解説として、チェックリストの項目に沿ってまとめ文を作成することにした。

5)道路のチェック方法に関するメモの作成と測量用の棒の準備(第6回打ち合わせ)

道路のチェックの仕方を統一し、誰でも簡単にできるようにするため、土木分野の技術者であったメンバーがマニュアルと測量用の棒を作成した。測量用の棒は植木に用いる長さ1mの細い棒の先端に糸で五円玉をぶら下げたもので、道路の傾斜が簡単に目測できる工夫をしている。

6)歩道・駅前デッキ等のまち点検活動の実施(第8回から第15回打ち合わせ)

まち点検の当日の進め方は表2の通りである。集合場所に集合して、コースの説明、役割分担を確認してから、4、5人ずつのグループに分かれて点検活動を行った。その際、経路の拡大地図とまとめ記入用シートを各自が持参し、問題箇所を記録しながら点検した。また、経路ごとにビデオや写真を撮影し、問題のあった箇所および活動の様子を記録した。点検後は会議室に集合し、グループに分かれて内容を確認し、全体で打ち合わせた結果をグループリーダーが家に持ち帰り、マップにまとめる作業を行った。

7)駅の点検の実施(第14回打ち合わせ)

駅の点検を行う際は事前に鉄道会社への届け出が必要であり、依頼書を作成して送付した。その際、事業者によっては市民独自の点検ではなく市と協力した点検活動の実施を望む姿勢が見受けられた。今回は市と協力して点検をするための準備の時間がとれなかったため、市民が一般通行者の迷惑にならないよう数名に分かれて点検する旨を報告して承諾を得た。

なお市でも交通バリアフリー基本構想策定の際に市民参加型のワークショップを行い課題を報告書にまとめていたため、事前にそれらの内容を読み合わせした上で、さらに詳細な内容に関して点検活動を行った。

8)まとめ作業と報告書の作成(第16回、第17回打ち合わせ)

各経路別にバリアマップが完成したが、全体のまとめかたを話し合う中で、各経路で見いだされた課題をまとめる形で報告書を作成し、別冊資料編として経路ごとのバリアマップを添付することにした。まとめの報告書は目次構成を議論した上で、数名で分担して執筆および写真等も合わせた編集を行った。

9)報告会の実施(第19回打ち合わせ)

まち点検結果まとめの報告書とバリアマップの内容に関する市への報告会を実施した。市からは担当部局の3名の出席が得られた。報告会では市民側から点検の結果と要望を一通り説明し、市担当者がそれに関して考えられる市の対策や感想を率直に述べた。市民が作成したまとめやバリアマップについては、今後実施計画を推進する上でチェックリストとして活用することなどが話し合われた。

4 各過程における課題および考察

以上の経過を踏まえて、それぞれの段階における課題を整理する。

表2 まち点検活動の準備と当日の流れ

○点検活動の流れ
・所要時間：約2時間半
①流れの説明(約10分) ②分担して点検(約1時間～1時間半)
③屋内にて班ごとにまとめ作業(約1時間) ④全体まとめ、作業分担確認(約10分)
○当日準備する物：各自に用意する物—経路が出ている住宅地図、チェックリスト、まとめ記入用紙
季節によっては帽子や飲み物
グループごとに用意する物—メジャー、カメラ、ビデオ、はかり棒
○歩道に関する点検項目
①歩道(幅、切り下げ、路面凹凸、その他)
②障害物(駐輪、駐車、看板、その他)
③視覚(点字ブロック、音声信号機、その他)
④案内掲示 ⑤バス停
※なお、いずれも車いす、視覚・聴覚言語障害、子ども等々の各視点に留意

①点検の期間

今回は市の実施計画の作成に向けて提言することが目的であったため、3ヶ月で点検とまとめを終了するという極めて短期間の作業であった。このため、一部の経路については点検が行えなかった。また経路自体の妥当性など、より広い視点で検討を加えることができず、必要最小限の点検活動に留まった。参加メンバーの点検活動への参加やまとめの作業にかかる負担もかなり大きく、逆に参加する意向があっても日程調整ができず参加できないメンバーも少なくなかった。一つの駅および駅周辺についてたとえば半年程度時間をかけられれば、さらに様々な立場から、気候や天候の変化も含めて詳細な点検活動が行えると考えられる。

②点検前の事前の準備

点検時の記入用に、経路を記した地図が参加人数分必要であるが、今回は住宅地図を拡大コピーして用いた。これは周辺の建物名から現在位置が確認しやすく、効率的であった。また地図のコピーについては市役所の協力が得られ、適当な住宅地図を容易に入手することができた。チェックリストについては当初、人数分用意していたが、結局、リストに書き込むことはせず、地図およびまとめ用シートに自分の言葉で書き込む方が記入しやすかった。チェックする項目は最初に十分検討する必要があるが、歩きながら点検活動を行う際にはリストを細かく読みながらチェックする余裕がないため、各自が十分に頭に入れた上で点検に参加する必要があった。

③参加者の事前確認と役割分担

今回は一部の点検日について、参加者人数等の事前の確認が不十分であったが、歩行ルートや役割分担を事前に決定しておいたほうが、当日集合した際の事前確認が短時間で済むため効率的であった。点検活動とまとめの打ち合わせには2時間半程度が必要で、長くなると参加者の疲労も大きいため、事前にできることは準備しておいたほうがよい。またカメラやビデオを持参する担当者も必ず事前に経路の数だけ確保する必要があった。今回は一部の点検日について、人手不足から、一人で複数ルートの撮影を担当したり、ビデオあるいはカメラのいずれかしかないケースがあり、後から写真撮影に再度出向いた経路もあった。

④打ち合わせ場所の確保

点検後は集まって点検内容について確認する作業が不可欠である。このため、事前に会議室等の確保が必要であるが、大学の生涯学習関連の会議室や地域開放された食堂等を利用することができ、活動に大きく役立った。

⑤グループでの点検活動

チェックリストを各自が理解した上で点検活動を進めるが、一人ではやはり見落とす部分がある。複数の目で確認し、最後に意見交換をして結果を共有することで、見落としが少なくなり、互いに新たな視点に気づくことができた。また今回は、車いす利用者と視覚障害者が別々のグループに分かれて点検したが、視覚障害の参加者から、車いす利用者と一緒に点検したほうが、その場で双方のニーズの相違を確認したり妥協点を探ることができ、より効果的だったのでは、という意見が寄せられた。大人数での点検活動は、他の歩行者等に邪魔になることが懸念され、今回は4、5人のグループ単位としたが、できるだけ様々な視点を持つ人が混ざり点検活動を行えることが好ましい。また精度の高い点検を行うためには、事前に参加者にチェック項目を渡ししておくなど十分な情報提供を行い、チェック事項の内容について共通理解を深めておくことが必要である。

⑥まとめ作成担当者の決定

今回は点検グループごとにまとめの作業を行う担当者を決めて整理を進めた。中には一人で何枚ものまとめシートを作成したメンバーもおり、もう少し多くのメンバーで作業を分担できれば、作業負担が軽減できたと思われる。また事前の説明不足などにより、マップのイメージや完成度が異なる例もあり、マップのイメージを誰もが共有できるよう、事前説明を徹底する必要があった。なお、チェックリストの作成やまとめ作業に際して、大学で関連分野の研究をする学生の協力を得られたことが大いに役立った。

⑦まとめ報告書とバリアマップの内容

点検結果全体をまとめた報告書では、問題点の指摘や整備してほしい内容の方向性を示したが、具体的にこのようにしてほしいという内容までは踏み込まなかった。実際の解決策は様々な方策があり、最も適切な具体案を見出すには、十分に時間をかけて他の先行事例を検討したり、必要ならば新たな技術開発を行うなどの、専門的な知識や経験が必要とされる。今回は時間的制約もあり、市民側で具体案の提出には至らなかったが、次の段階として、市に市民の意向を踏まえた具体的な計画内容を提示してもらい、さらに具体案について市民側の意見を述べるなど、継続的な意見交換の場が必要である。実際、松戸市では市民の提言を受けて市が市道等に関する整備要領案を作成し、市民に説明する機会が設けられた。今後もさらにこのような意見交換を継続して、具体的な実施計画につなげることが期待される。また今回のまとめは市に対する提言をまとめたもので、やや専門的な用語が用いられたが、今後一般の市民が読みやすい形にする場合はさらに平易な用語を用いた

表3 バリア点検参加者へのアンケートの結果

(いずれの項目も1非常に満足, 2満足, 3どちらともいえない, 4やや不満, 5非常に不満, の五段階で評価。()内は人数。)

チェックリストの満足度
<ul style="list-style-type: none"> ・非常に満足(1), 満足(6), どちらともいえない(2) ・チェックリストの観点は良かった。しかしまとめカードとしては活用できなかった。点字ブロックリストは細かすぎた。地図への直接記入が一番実用的ということが試された。 ・リスト作成のための話し合いに時間をかけたかった。消化不良のまま点検に進んでしまったように思う ・どの部分を見れば良いのか, ある程度の予測が付き, 行動が整理されたと思う
バリア点検の満足度
<ul style="list-style-type: none"> ・非常に満足(1), 満足(8) ・チェックポイントを事前に提示してチェックリストも正確にした。特にデジカメ・DVDも駆使を指示した。 ・まとめの打ち合わせをもっと議論したかった。たとえば障害別でのバリアの違いなどを詳しく ・1回1回, 区間ごとに短時間でも参加者全員で意見を出し合ってまとめのが良かった。共通の認識が深まった。 ・まち歩きは, 市民の皆さんが日常感じるバリアの他に, 自分達では気がつかなかったバリアにも気づく良い機会だと思いましたが, 複数の人と歩かなければ, 自分では気がつかないこともあったと思うので, 充実していたと思います。 ・車いすの方だけでなく視覚障害の方も加わり良かったと思います。さらに聴覚障害の方, バギーを使っているお母さんなども加わってできれば・自分たちの問題という意識が高まると思うのですが・ ・初めて参加させてもらいましたが現状ではこんなものでよいのかなと思っています。 ・今後は, 子供, 大人, 女性, 男性, 高齢者, 障害者, 及び家族の方々, 外国人などの参加を得て実施してほしい。特に初めて体験する人を優先して参加を願ってみたい
報告書の内容の満足度
<ul style="list-style-type: none"> ・非常に満足(1), 満足(8) ・バリアマップ-バリアマップ解説-市民からの提言と完璧なもので非常に満足しています ・素人集団にしてはまあまあの上上がりだったと思う ・自分たちの足で歩いて点検したこと, 貴重な財産です。私たちの3点セット(マップ, 解説, 提言)は運動・活動の土台となるもので大切な物と考えます
市への報告会の満足度
<ul style="list-style-type: none"> ・非常に満足(3), 満足(3), どちらともいえない(2), やや不満(1) ・市当局がマップを見て「よくもこれだけ粗をさがしてくれた」の発言にみえるほどのできばえで東葛地域の市民が注目と感嘆した ・第1回としてはまあまあです。私たちの切なる思いをどう行政全体の意識とさせるか, 不透明です。市民会議の議論が大切です ・私たちの熱意をかってくださったのはいいのですが参考にはなく指摘した点などを市民(私たち)と共に解決する方向をとっていただけたらと思います。 ・「到達目標」がベストなのか明確にしておく必要あり。感覚的には満足なのだが。
その他, 感想や意見など
<ul style="list-style-type: none"> ・作業班・調査チームがすぐれたメンバーで限られた機関で苛酷な作業を良くできたと感激しているそれにしても“キャップ”評価がたらないまあ・ ・あらさがしや報告書を作ることだけが目的ではありません。事実は事実として認め合い, 一つでも改善され, 住みよい良い町になることが目的です。こうした原点を大切に, 市民参加を常に意識し, 点検の前に事前にお知らせを配る, マスコミの取材をお願いするなど工夫して行けたらと思っています ・自分達のまちについて, その地域に住んでいらっしゃる市民の皆さんが積極的に参加なさっているのは, まちづくりにとって大切な要素だと思います。 ・仲間を増やし継続して活動することが大切 ・バリアマップを一般のかたに使ってもらうのだったらもう少しやさしい言葉で解説してもよかったですかなと思います。専門用語的な, ちょっと固かったかなと思います。 ・ユニバーサルサービスの勉強をしましょう ・各位に配布されていないものはマスターファイルに保管すべし。どこに置くか一考を要するが。

り, 対象に合わせて内容を補足することも必要である。

バリアマップは各経路について, 視覚関連と歩道等全般についての2枚が作成され, 時間的な制約もありそのまま活用したが, 重複する内容もあり, 今後はさらに1枚にまとめることも考えられる。

5 まとめ

「バリアフリーまつど市民会議」のまち点検活動の概要を

把握し, 特徴や課題を整理した。松戸市では, 市民相互および市民と行政の協力により, 満足度の高いまち点検活動が推進されていた。このような点検活動を行えた第一の要因は, 多様なメンバーが活動に参画していることがある。高齢者や車いす利用者, 視覚障害者, 介護・子育て・ボランティア・各種まちづくり活動等の経験者, 定年退職した土木技術の専門家などが各自の知識や体験を交換し, 図面の作成や編集作業においても力を十分に発揮したことによ

り作業が進展した。メンバーの中心は知識、経験が豊富ないわゆる「リタイア層」であり、地元のボランティアや大学関係者、学生など様々な層が協働することで、密度の濃いまちづくり活動を実践できることが明らかとなった。

なお、この活動は現在も活動範囲を広げて進行している。市では市民全体への公平性を重視するため、市民会議としては、幅広い市民への参加の呼びかけや活動内容の情報公開がいっそう必要とされている。また大学と市民との協働については、地域の様々な大学の学生や職員が組織的に参加する仕組みを作ることができれば、さらに活動が活性化し、継続的な活動につながってゆくものと思われる。

<謝辞>本研究をまとめるにあたり、松戸市役所都市整備本部企画管理室 担当者の皆様、バリアフリーまつど市民会議、帝京平成大学理学療法学科徳田研究室、聖徳大学生涯学習研究所にご協力いただきました。記して深謝する次第です。

なお、本研究は学術フロンティア推進事業「生涯学習の観点に立った『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的な研究」の一環として行われたものです。

参考文献：

- 1) 千葉県社会部高齢化施策推進課；福祉のまちづくりマップの手引き，1998年
- 2) 高齢者とまちづくり研究会編著；高齢者とまちづくり，風土社
- 3) 柏市福祉部障害福祉課車いすにやさしい街をつくる会，「車いすマップ 柏市内周辺」，1994年
- 4) 平成13年度まつど生涯大学専攻科福祉まちづくり探検隊調査報告書，2001年
- 5) 蓑輪裕子；生涯学習と福祉のまちづくり，聖徳大学生涯学習研究所紀要1，pp. 87-94，2003年3月
- 6) 蓑輪裕子；生涯学習講座における福祉マップづくりの取り組み，日本福祉のまちづくり学会第5回全国大会概要集，pp. 269-270，2002年
- 7) 蓑輪裕子，城戸美和；生涯学習とバリアフリーのまちづくりー松戸市における取り組みー，聖徳大学生涯学習研究所紀要3，pp. 33-40，2005年3月
- 8) 蓑輪裕子；交通バリアフリー基本構想のためのニーズ調査と市民参加の取り組みー千葉県松戸市の事例からー，日本福祉のまちづくり学会第8回全国大会概要集，pp. 490-493，2005年8月
- 9) 蓑輪裕子；大学の市民活動支援と地域連携によるバリアフリーのまちづくり，千葉県松戸市における取り組みー，聖徳大学生涯学習研究所学術フロンティア推進事業報告書，pp. 63-102，2005年7月
- 10) 交通エコロジー・モビリティ財団，(財)国土技術研究センター編；参加型福祉の交通まちづくり，学芸出版社，2005年2月